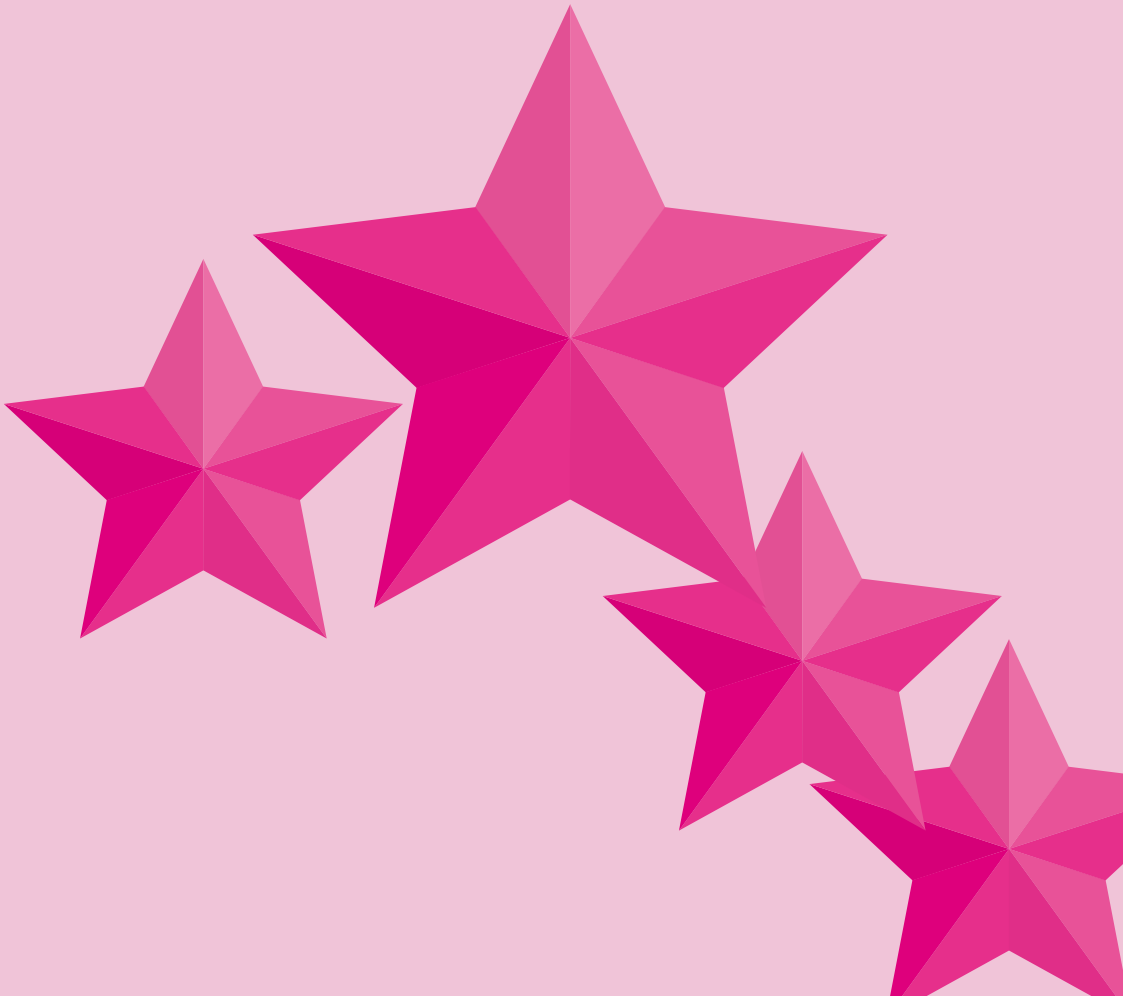
特集

# 医療安全推進者の育成と活躍

多くの病院では、各部署に安全担当者（医療安全推進者）が配置されていて、医療安全管理部門と各部署の医療安全推進者が連携した安全管理体制がとられています。しかし、医療安全推進者の間でも人によって取り組み方には温度差があり、またしばしば権限などが不明確なこともあって、安全管理部門が医療安全推進者に対してどのような教育・研修を行い、各人にどのようなかかわりをもつ（求める）ことが適切なのかは、試行錯誤している現状があります。

本号では、各部署の医療安全推進者が活躍できる体制づくりを念頭におき、研修・教育のあり方、各人が力を発揮できる環境・位置づけ・モチベーションなどの工夫などについて、各医療機関における実践をご報告いただきました。



イントロダクション：本特集の企画にあたって

# 医療安全推進者の育成と活躍
## ――現場の安全力を高めるために

新村　美佐香
医療法人五星会　菊名記念病院　医療安全管理室
認定病院患者安全推進協議会　患者安全推進ジャーナル企画部会

医療安全文化を根づかせるためには、組織全体として医療安全への取り組みを進めていくことが重要である。そのためには医療安全管理部門が中心となって、組織横断的に医療安全活動を進めていくことが必要と考える。

医療安全管理部門には、医療安全管理者の配置が求められていて、その業務内容は「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」[1]などに記載されているとおりだが、医療安全管理者が管理者としての業務を遂行していくには、現場の多くのスタッフを、いかにして医療安全活動に巻き込んでいくかが重要となる。

しかしながら、長年医療安全管理者として活動している者であっても、スタッフを巻き込んでいくことの難しさを感じる場面を、往々にして経験する。例えば、インシデント・アクシデント報告に関して、レベル0～1の事例でも積極的に報告してくる部署とそうでない部署があり、各部署の医療安全に対する認識に、どうにもならない「温度差」があると感じることもある。

このような温度差をなくしていくには、各部署の安全担当者（名称は「医療安全推進者」「セーフティマネジャー」「リスクマネジャー」など病院によってさまざまであるが、本稿では医療安全推進者とする）と連携し、医療安全活動を進めていくことが、有効であり必要であると考える。

医療安全推進者には、それぞれの部門において医療安全を中心的に推進する役割があり、専従／専任医療安全管理者を支援しながら、部門内でのエラーの抽出・分析・報告、対策の周知、啓発、教育、医療事故発生時の連携などを担当し、部門の安全文化の醸成を促進することが求められる[2]。そして、医療安全推進者がこの役割を担うには、そのために必要な知識・技術を習得できるよう、病院として育成を進めていく必要があるだろう。

日々、現場ではさまざまなことが起きている。それらに対応していくには、医療安全推進者が医療安全の視点をもちつつ、医療安全管理者と密に連携を図っていくことが大切である。医療安全推進者が現場で活躍し、現場の安全力を向上していくことが、医療安全文化醸成を根づかせる近道になるのではないだろうか。

### 文献

1）厚生労働省　医療安全対策検討会議：医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針．2007.
https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/i-anzen/houkoku/dl/070330-2.pdf
2）日本看護協会：医療安全推進のための標準テキスト．2013，p12.
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/text.pdf